

長岡市長記者会見要旨

日 時：令和元年11月29日（金）午後1時から

会 場：アオーレ長岡東棟4階 大会議室

【会見項目：第2期エリア全区画の予約分譲を決定！長岡北スマート流通産業団地に8社が進出】

（長岡市長）

長岡北スマートインターチェンジ周辺は、三つのエリアに分けて流通産業団地を整備しています。

このうち第1期エリアは7社の進出が決定して既に発表済みですが、6月から8月まで第2期エリアの予約分譲を受け付けたところ12社の応募があり、書類審査とヒアリングの結果、このたび8社の企業から進出いただくことになりました。

まず、区画①は、千代田区に本社を置く太平興業株式会社です。三菱ふそう製のトラック、バスの修理、部品の販売を行う会社で、現在市内に事業所がありますが、そのほかに新たな拠点を設けて業務を拡張したいとのことです。

次に、②と③の区画ですが、市内企業の美松が決定しました。焼き菓子、生菓子製造販売を行う会社です。サンキューセールで有名ですが、新たに工場を建設して、物流拠点と小売店舗を設けたいとのことです。

④と⑤の区画は、日本陸送株式会社です。群馬県の太田市に本社を置く、自動車の輸送、部品取り付け業務を行う会社で、新たな拠点を設けることで効率的な県内全域の輸送を実現し、梱包材の研究開発もここで行う計画です。県内初進出となる今回、長岡の地を選んでいただきました。

区画⑥は、株式会社カンエツです。新潟市に本社を置き、道路保安用品、仮設資材の販売、レンタルを行っている会社で、市内にある事業所を移転・拡張して、信越・北陸地方を視野に入れながら業務展開を図るための中核拠点にしたいとのことです。

⑦につきましては、企業側の都合によりまして現時点では社名の公表を控えさせていただきますが、企業との調整が整い次第、発表します。

区画⑧は、株式会社大原運輸です。昭和47年より市内に本社を置き、一般貨物輸送を行う会社で、新たな拠点を設けて業務拡大を図る計画です。

区画⑨は、株式会社波多製作所です。市内に本社を置き、金属機械部品の加工、工作機械・産業機械などの組み立てや、産学連携による風力発電機の開発なども行っています。新たに工場を建設して、さらなる産学連携を進めながら事業拡大を図る計画と聞いております。

区画⑩と⑪、これは株式会社新潟食品運輸です。新潟市に本社を置き、食品の運送、仕分け、保管

等を行う会社です。現在、市内に事業所がありますが、これとは別に最新の設備を備えた物流センターを新たに設けて、県内あるいは関東甲信、北陸の配送網を構築するという計画です。

以上の8社を、今後の事業計画も含めて地域経済への寄与、市内の産業への貢献度を総合的に審査して、希望区画も考慮しながら内定企業と決定いたしました。

今後の予定ですが、12月17日に進出協定を各社と締結し、令和3年度の造成工事完了後に土地売買契約を締結する予定です。

これらの企業を第2期エリアに誘致することで、約59億円の設備投資効果と年間約91億円以上の売り上げが予想され、約400人の従業者数が見込まれています。

そして、第1期エリアの7社と合わせますと、設備投資が142億円、売り上げが年間179億円以上、従業者数780人が見込まれているところです。

なお、第1期エリアは令和2年、来年の夏から秋、第2期エリアは令和3年の夏から秋の引き渡しを目指して造成工事を進めています。

また、第3期エリアの予約分譲は、経済の情勢や企業立地動向を踏まえながら、令和2年度に実施する予定です。

引き続きこの産業団地への企業誘致を進めまして、地域経済の活性化、定住人口の増加を目指していきたいと思っていますところです。

(記者)

今、経済情勢が悪くなっている中で、第1期分譲のときに比べて第2期の申し込みの状況や企業の反応などはいかがでしょう。

(長岡市長)

長岡も含めて、日本の経済状況は、やはり下降気味にあると思っていまして、若干その影響は受けてきたなという思いはあります。

今回の消費税率の引き上げも含めて経済動向が気になるところですが、長岡地域、特にインター周辺に対する関心と引き合いは根強いものがあるので、長期的な観点からは今後の第3期もそれほど心配はしておりません。

(記者)

では、第3期もめどは立っているということよろしいでしょうか。

(長岡市長)

既に引き合いがありますので大丈夫という感触は持っていますが、情勢を見極めながら第3期に移りたいと思います。

(記者)

では、第3期の申し込みを来年度から受け付けるというのは、工事の進捗の問題でしょうか。

(長岡市長)

そうではなくて、経済情勢なども勘案して判断をしたということです。

(記者)

各企業がここを選んだ決め手はどのようなものでしょうか。

(商工部長)

第1期と同様に、やはり新潟、北陸、関東に通じる結節点としての北スマートのインターチェンジの立地です。もう一つは、長岡駅から非常に近いとご判断いただいています。

(記者)

そうすると、左岸バイパスの完成が急がれると思うのですが、今後の見込みはどうなっているのでしょうか。

(道路建設課長)

現在、古正寺地区で4車線化に向けて工事をしている、国道8号から北側は用地買収を進めています。国道8号から今回の産業団地の区間は、令和4年度の完成を目標として取り組んでいます。

(長岡市長)

北スマートインターチェンジの利用が思いのほか急速に伸びています。新潟方面から長岡に入るとき、長岡インターよりも北スマートインターのほうが市街地にも近いとか、そういった評価が広がって、北スマートインターチェンジの認知度が上がってきています。

そういう意味では、左岸バイパスへの接続はきっちりしたいと思っています。

(記者)

新規雇用が約140人ということですが、新規採用以外に長岡に異動される人数はどのくらいでしょうか。

(商工部長)

実際にどういう方々が来られるかわからないので、算出していません。

(記者)

今回は1期、2期と全部埋まっているわけですが、改めて、第3期エリアもかなり自信を持っていらっしゃるということよろしいでしょうか。

(長岡市長)

おっしゃるとおりです。自信を持っています。したがって、第3期分譲以降はどうか、内部で検討を始めています。

(記者)

第3期以降は、近隣に土地があつて第4期を検討されているということでしょうか。

(長岡市長)

土地といっても空き地ではなくて、基本的には農地です。農地をどのように転用可能かということを見ながら、拡張あるいは新たな場所の展開などを検討しているということです。

(記者)

北スマート流通産業団地をもう少し広げる可能性があるという意味合いでしょうか。

(長岡市長)

いえ、あらゆる可能性を見ながらやっていきたいと思っています。

(記者)

今回、準備段階調査箇所に決まった大積のスマートインターチェンジの周辺もお考えでしょうか。

(長岡市長)

当然そうなります。立地として、一つは今回の成功例を見ても、インターチェンジ周辺は本当にアドバンテージになるということがわかりましたので、そういったものを中心に土地を探しているというか、見出していくということにしています。長岡には南越路スマートインターチェンジもありますので、いろいろなインター周辺でどういった産業団地の可能性があるか、検討を始めているということです。

大積は広い平坦な土地があまりないですが、規模は別にして、大積インターチェンジの立地に着目していただける企業もあるかと思しますので、候補地の一つになるかと思います。

【その他の質問】

(記者)

12月1日から消雪パイプの地下水位の状況を指数と色で見やすいようにする取り組みが始まると思うのですが、長岡発祥の歴史ある消雪パイプに、IT、IoTなどの技術を組み合わせることについて、どのようにお考えでしょうか。

(長岡市長)

消雪パイプは長岡市を発祥として豪雪地で普及したわけですが、地下水位や地盤沈下の問題は、やはり大きいと思っています。地下水を守っていくには、税を取る、規制するなどのさまざまな考え方もありますが、利用される方が自分の判断で大切な地下水資源を守っていくという考え方を持ってもらいたいと思います。

消雪パイプに使用する地下水は、道路が2、3割で、そのほかは営業用の駐車場や構内での利用が多い状況です。

そういったところに、自分の構内の積雪の状況をカメラで監視するような、IoTを使ったシステムを全市的に広げていけたらと考えています。

(記者)

市長の任期は来年の秋までですが、市長の感触として、4年1期は短いと考えていらっしゃるのか、いかがでしょうか。

(長岡市長)

一般論でいえば、新しいことや大きなことをやろうと思わなければ、4年で十分ということもあり得ると思います。

ただ、今まであるものを変えていこう、あるいは新しいものに取り組もうということを発想したときは、なかなか4年間でそれが完成するというのは難しい場面もあるのかなと思っています。

そういう意味では、新しい時代の中でのイノベーションや、今回の台風19号を受けて、これから防災をどうしていくかというような課題が次から次に出てくる中では、4年、5年という任期で何かが片づいていくという感触は余り持っていません。

(記者)

それは、一般論ではなくて、ということでしょうか。

(長岡市長)

長岡市の場合はそうです。ただ、それを誰が担うかはまた別の問題ですので、行政課題はそういう4年、5年で一丁上がりというものはあまりないというか、やはりそれなりの年月はかかるのではないのでしょうか。

(記者)

では、ご自身も含めて誰が担うのかというのは、いつごろ決めたいと思っていらっしゃいますか。

(長岡市長)

それは市民の選択なのでしょうが、今はそこまでの考えはないです。残りの任期は1年を切りましたが、ここは目いっぱい、一日一日頑張っていきます。